

平成26年度温室効果ガス排出量実績（報告）

1. 温室効果ガス排出量

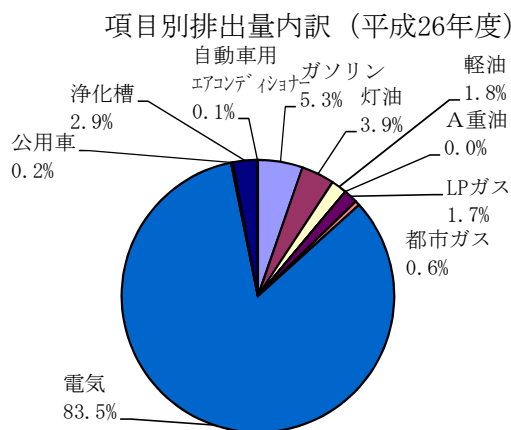
平成26年度における洲本市地球温暖化対策実行計画に基づいた事務及び事業に伴い排出された活動量及び温室効果ガス排出量は、次のとおりとなっています。

調査項目	単位	活動量			温室効果ガス排出量 (kg-CO2)					
		平成23年度 (基準年度)	平成26年度	平成23年度比	平成23年度 (基準年度)	平成26年度	平成23年度比	平成26年度 構成比	増減率	
燃料使用量	ガソリン	L	65,098.4	65,387.6	289.2	151,026.10	151,697.40	671.30	5.3%	0.4%
	灯油	L	69,746.0	49,281.2	-20,464.8	132,902.20	123,537.38	-9,364.82	3.9%	-7.0%
	軽油	L	20,202.3	16,993.9	-3,208.4	52,502.80	44,156.80	-8,346.00	1.8%	-15.9%
	A重油	L	0.0	0.0	0.0	0.00	0.00	0.00	0.0%	0.0%
	LPガス	kg	18,318.5	16,837.1	-1,481.4	55,046.69	50,591.86	-4,454.83	1.7%	-8.1%
都市ガス	m ³	6,865.0	6,597.0	-268.0	14,856.19	14,276.25	-579.94	0.6%	-3.9%	
電気使用量	kWh	5,872,442.1	5,242,842.7	-629,599.4	2,642,593.30	2,359,341.00	-283,252.30	83.5%	-10.7%	
公用車の走行量	km	733,642.7	887,662.7	154,020.0	5,360.91	6,654.84	1,293.93	0.2%	24.1%	
浄化槽によるし尿及び雑排水の処理	人	4,757.9	4,313.5	-444.4	92,805.76	84,127.54	-8,678.22	2.9%	-9.4%	
自動車用エアコンディショナーの使用	台	181.0	170.0	-11.0	2,353.00	2,210.00	-143.00	0.1%	-6.1%	
合計					3,149,446.95	2,836,593.07	-312,853.88	100.0%	-9.9%	

項目別構成比

平成26年度の温室効果ガス排出量合計では、対基準年度比9.9%の減少となっています。

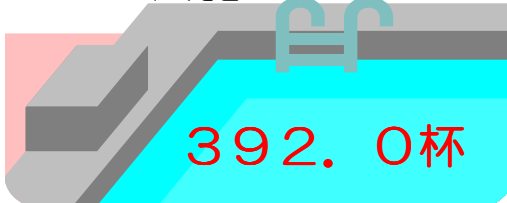
電気使用量による温室効果ガス排出量が全体の83.5%を占め、燃料全体（ガソリン、灯油、軽油等）の割合が13.3%となっています。



対基準年度比の削減量

312,853.88kg-CO2 とは、

25mプールだと



※1kg-CO2=0.509m³

※25mプール容積 25m*13m*1.25m=406.3m³

吉野杉が1年間に吸収する二酸化炭素量では



47,764本

※住宅の柱が一本取れるような吉野杉が1年間に吸収するCO2の量 6.55kg-CO2/年

2. 項目別の温室効果ガス排出量

<二酸化炭素(CO₂)を排出するもの>

「ガソリン使用量」における排出量は、対基準年度比**0.4%の増加**となっています。管財課、環境整備課等で使用量が減少していますが、企画課、消防防災課等で使用料が増加しているため、全体では増加となっています。

「灯油使用量」における排出量は、対基準年度比**7.0%の減少**となっています。管財課、五色ストックヤード等で使用量が増加していますが、小路谷火葬場、五色台聖苑等での使用量が減少していますので、全体では減少となっています。

「軽油使用量」における排出量は、対基準年度比**15.9%の減少**となっています。五色ストックヤード等では増加していますが、管財課、環境整備課ダンプで使用料が減少しているため、全体では減少となっています。

「LPガス使用量」における排出量は、対基準年度比**8.1%の減少**となっています。第二小学校等で使用量は増加していますが、鮎原診療所等での使用料が減少していますので、全体では減少となっています。

「都市ガス使用量」における排出量は、対基準年度比**3.9%の減少**となっています。洲本保育所や青雲中学校での使用量は増加していますが、本庁舎、洲本中央公民館などで使用量が減少していますので、全体では減少となっています。

最も排出量の多い「電気使用量」は、対基準年度比**10.7%の減少**しております。健康福祉館等で使用量が増加していますが、本庁舎、南庁舎、五色庁舎、鮎原診療所、小中学校、公民館等各施設で使用量が減少していますので、全体では減少となっています。

<メタン(CH₄)・一酸化二窒素(N₂O)を排出するもの>

「公用車の走行」における排出量は、対基準年度比**24.1%の増加**となっています。環境整備課、管財課での走行量は減少していますが、企画課、消防防災課等で走行量が増加していますので、全体では増加となっています。

「浄化槽によるし尿及び雑排水の処理」における排出量は、対基準年度比**9.4%の減少**となっています。一部の小中学校、保育所などで増加していますが、市営住宅等で減少していますので、全体では減少となっています。

＜ハイドロフルオロカーボン類(HFCs)を排出するもの＞

「自動車用エアコンディショナーの使用」における排出量は、対基準年度比**6.1%の減少**となっています。増加しているところはありませんが、消防施設などで減少していますので、全体では減少となっています。

3. まとめ

第2期の実行計画では、温室効果ガス排出量を平成23年度と比較して3%以上の削減を目標としています。平成26年度の実績は、基準年度比9.9%の減少となりました。

目標達成の主な要因は、本市の事務・事業活動から発生する温室効果ガス総排出量の約8割以上を占める電気使用量の大幅削減が挙げられます。平成26年の天候は、例年並となりましたが、冷暖房温度の適正設定、不要な照明の消灯などの日頃の取り組みや照明の間引き、省エネに対する意識向上により電気の使用が抑えられました。

平成26年度の実績は十分に目標を達成できていますが、本計画は平成29年度までの計画となっていますので、今回の結果に満足せず、本計画に基づく取り組みの更なる推進、温室効果ガスの削減効果の大きい省エネルギー型の機器や低公害車の導入を進める必要があります。

本計画は、市の事務・事業に係るものであり、計画の推進には職員一人ひとりの取り組みが重要となります。今後も職員の意識高揚を図るとともに、地球温暖化対策の取り組みを行っていきます。